

ONJUKU

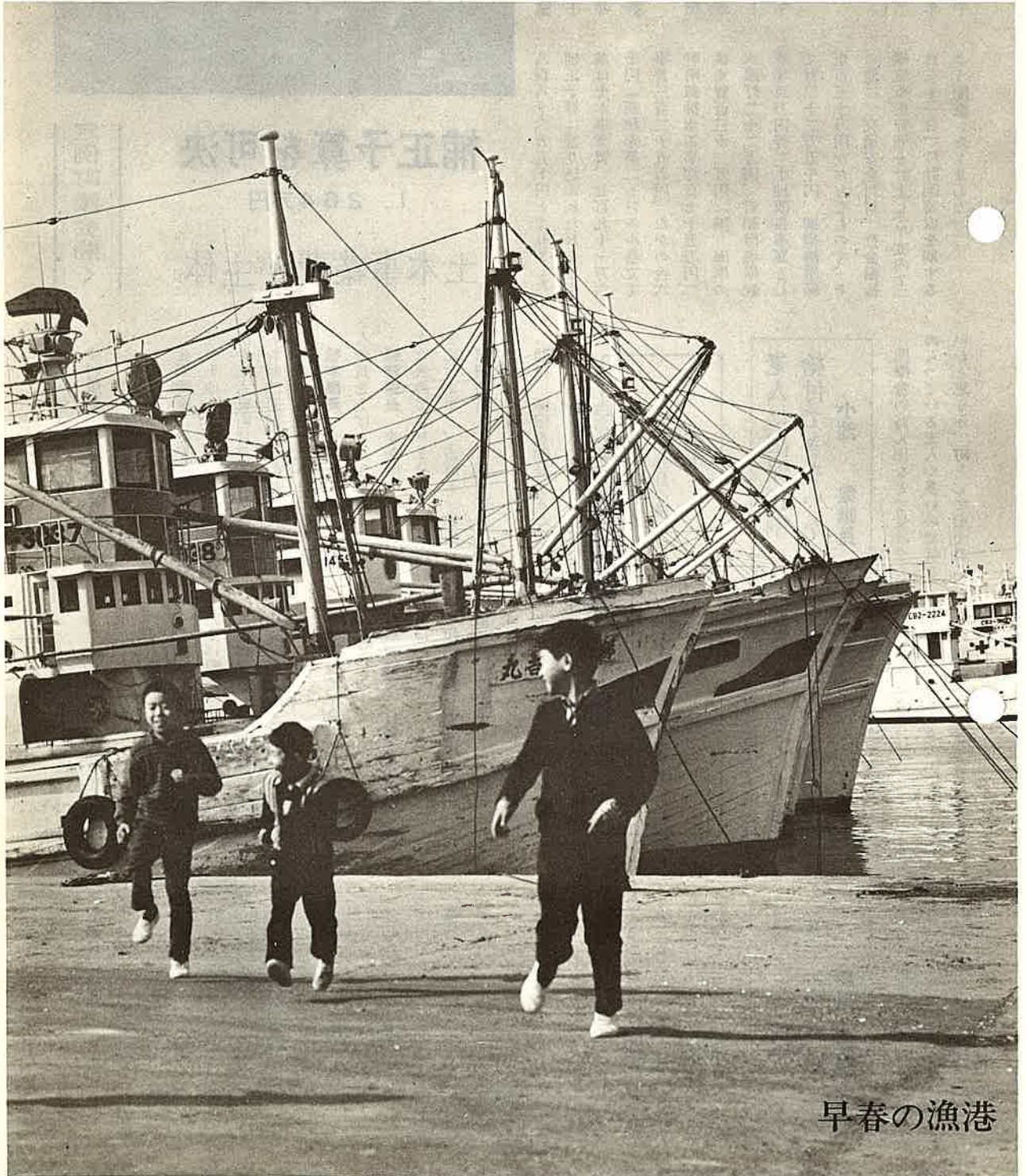
おんじゆく

広報

No.70

昭和44年1月

千葉県御宿町役場 発行



早春の漁港



定例町議会開く

補正予算を可決

1,264万円

土木事業費が主体

おもな質疑は次のとおり。
中村議員 財産収入の予定地および、土地の評価格について伺いたい。

企画課長 公民館敷地、海岸附近の土地を予定している。価格は浜から六軒町に至る海岸線は、おおむね二万円、火葬場附近で五万円、浦中附近で大体一万円です。

松本議員 来年度、じん芥処理人夫賃を上げる意志があるのか。
総務課長 来年度どうするか、まだ決めておりませんが、他町村と比べますと、当町が一番高い。

石田議員 ダム調査費の五十万円について説明ねがいたい。
助役 御宿を開発するためには

水がぜひ必要です。実谷にダムをつくる計画で、調査費用として計上した。

江沢議員 芝谷林道の五十万円の減額は、また、宿日直代行員は完全に配置されているか。
産業課長 芝谷線は、地元からの要望で延長を減らしたためである。

教育長 宿日直代行員は、配置されている。
岩崎議員 自動車取得税交付金とは何か。

税務課長 自動車を購入すると取得税が県税として、課税されますが、そのうちの一部が道路財源として市町村に交付されます。

一般質問から

十二月十九日の議会で、次のような一般質問がありました。(要旨)

老人に国保10割
給付できないか

小池 健議員

医療費のねん出などで受診をためらっている老人が多いのではな
いかと思うが、町として七十歳以

上の老人に対し国保の十割給付は考慮できないか。また老人世帯および寝たきり老人に対する家庭奉仕員を考慮していただきたい。
敬老の日に出席できないものには記念品など届けているようですが、もう少し、老人の日にふさわしい取り扱いをしていただきたい

マツクイ虫の防
除を積極的
に

高梨 秀治議員

最近、山間部の方面でマツクイムシによる被害が相当みられるがこのまま放置すると被害がさらに

昭和四十三年度第四回定例町議会は、十二月十九日午後一時三十分から役場会議室で開かれ、岩井町長より昭和四十三年度一般会計補正予算案が提出されました。

この内容について、中村、石田江沢、岩崎の各議員より、質問があったのち原案どおり可決しました。このあと一般質問があり、午後五時、閉会しました。

一般会計補正予算

〔議案説明〕追加補正額は、千二百六十四万円で、昭和四十三年度一般会計予算の総額は二億四千

八百八十六万五千円となりました。補正予算に盛り込まれたおもな事業は土木事業費、七百九十一万六千円(西林寺第二トンネル巻立工事費三百二十五万円、たかの台六軒町線排水工事等百七十五万円)、

観光費百三十二万円(浜、海岸の水銀灯二十二万円、岩和田海岸駐車場百万円等)土地改良事業として百二十二万五千円、御宿海岸保全百三十万円がおもなもので、その他に、交通安全対策、社会福祉環境衛生費等を計上し、年度内(三月三十一日)に計画達成を期するよう配意いたしました。

大きくなる。御宿は松によって美観が保たれているといつてもよいと思う。このマツがマツクイムシによって侵食されると、山林の保護と合わせ、観光面でもマイナスになる。この防除に対しどんな対策を考えているか。

吉野産業課長 毎年一回、春に薬剤散布して、予防、防除している。マツクイムシの被害をうけたとみられる木は焼却しているが、完全な防除はなかなか困難なので発見したら、すぐ処置するよう所有者の方にもご協力をおねがいしたい。

お祭りは改善 できないのか

式田 初夫議員

お祭りを婦人、子ども、町民全体が楽しめるよう改善したらよいと思うが町はどんな考えをもっているか。

岩井町長 祭典のことについては町民の間に改善を望む声が高まっていることは承知していますが、いままでも氏子総代の会議で数回協議し、結論を得ないで現在に至っていることを聞いており、なかなかむずかしい問題だと思いま

す。
自治体として宗教の自由を制限することはもちろんできませんが

住民の意見、希望にこたえよ

江沢富士松議員
井上 浩一議員

町民の意見を町政に反映しようという町長の積極的な考えのもと

土木関係がトップ

町民の意見と希望

岩井町長 町民の意志を行政にできる限り反映させるため、今年も十一月に各区で行政座談会を開催しましたところ、意見や希望など集計しますと百十七件の多きに達しました。意見の多かつた順に申しますと土木関係四十二件、衛生関係十三件、一般事務十一件、その他、九種目にわたるものでした。

大別して、事務能力的に解決できる問題は機を逸せず処理し、予算の伴う問題は緊急度を検討し、先刻決定した土木事業費に計上したように、今後とも計画的に処理したいと思えます。特に土木関係に

氏子代表会議などと協力して、この問題の推進をはかりたいと思えます。

に行なわれた町政懇談会はひじょうに、有意義であったと思う。そして各区より、いろいろな要望事項があつたと思うが、聞きっぱなしでは、何にもならない、町当局としていかなる対策をもって、この要望にこたえる考えかお聞きしたい。

岩和田川の改修 はできないのか

石田 行雄議員

岩和田の川は汚物や悪臭などで衛生上悪いし、観光地として好ましくない。また消防用水としても必要な川なので、改良整備をしてほしい。

岩井町長 岩和田川の改修と貯水池併用のことは長い懸案ですが環境衛生上にも、かばしくありませんので、年次計画で逐次改修

したいと思いますが、関係住民と部落、町の三者で具体的に協議を始める予定です。

房総東線の電化 見通しはどうか

岩崎栄一郎議員

房総東線電化運動のその後の経過と観光ピーク時の海水浴客輸送にどのような計画をもっているか。
岩和田の川はこのままでは火災のときに役にたたない。早急に整備していただきたい。
冬の鉄筋校舎の児童の健康管理と流感予防対策をどのようにしているのか。中学生の進路指導はどのようにしているか。

農業は衰退産業といわれているが、御宿町は農業に対し、もっと徹底した指導方針をうちだし、米作にたよっていた今までの農業を成長性の高い果物や乳牛に比重を移行するようにしなければいけないと思う。それには布施地区が適していると思われる。集団施設を整え、共同化し、技術を高めるために専門化し、作物売買の市場を御宿に設置したらよいと思う。また部田前道路は地元の人には土地を

提供しても拡張してほしいという要望ですので、早急に善処していただきたい。

岩井町長 県の南総開発計画の重点施策として鉄道網の整備、複線電化が強く打出されており、だんだん、この促進運動も活発に進められるようになり、最近では去る十一月二十八日鴨川で、この大会が開催され、国鉄本社、関東支社や鉄局の関係者が出席して論議され、その時点では四十四年三月までに君津駅まで複線完了、電化も千倉まで完成する予定なので時期は約束できないが、続いて電化の延長を図るよう努力する。

ピーク時の輸送については国鉄のみにたよらず、バス輸送を強化して行きたい。今年も千葉から御宿間の直行バスの運行でピーク時の緩和を計りました。
岩和田の川は石田議員に答えたように長期計画で立派な川にしたい。同時に貯水池にしたいと考えて着手したいが、戸はめはすぐ現場を見て解決したい。
消防団の統合は四月一日に布施の四個分団を一個分団に統合できました。建物は少しおくれたた

が、最近ようやく完成しました。つづいて岩和田と六軒町の分団の統合を本年度進めていきたい。佐藤教育長 鉄筋校舎はひえるので教室の床を板ばりにしたいのだが、経済のことを考えなければいけないので、とりあえず暖房ということできりぬけようと思う。

流感予防の注射はもれる者のいないように数回おこなっている。進路指導は進路指導係の教諭をあてて直接にはあたってはいますが間接には中学校に入学した時より職業指導教育の時間を設けて実施している。進学のことですが、国や県の方針で進学のための特別の指導、いわゆる補習授業はだんだん減っているが、どうしても皆より努力させなければいけないというような一部の生徒には正規の授業以外に勉強を課している。

吉野産業課長 果樹、畜産などの成長作物の奨励をしてきたけれども、なおいろいろ問題があります。ただ乳牛だけは流通機構の整備と需要の増でようやく経営が安定するようになりました。しかし、これも投資と技術面が完全でないといけないので、問題が残っている。農業収入の主なもの米作で

すが、この米も余ってしまったので休作に補助がでるありさまです。農業は天候に左右され、また適地適産ということもあります。また農民の勤労意欲をあわせて検討するので、なかなか問題がむずかしいわけですが。

町としてはダムの建設、土地の地盤整備、農林道の開発など農業の一環として、農民生活の向上、農業収入の増大に結びつくものだと思いますが、いろいろと問題が残っている。今後、町長を中心にして県や普及所、地域と密接に協議していきたい。

44年度の重点施策 をうかがいたい 中村 喜一議員

昭和四十四年度はどういう点に重点をおいて町政を行なうかがうか
がたい。

岩井町長 基幹産業である農・漁業の近代化・育成あわせて観光を進展させたいと思う。と同時に町内公共施設の整備をはかりたい。また高校校舎の新築の促進をした
い。

自衛隊員の手 で整地に着手 移転する御宿家政高校

御宿家政高校は、昭和四十年四月に夷隅高校(勝浦市)から独立し、県下でただ一つの家政高として、年々入学志望の生徒がふえています。しかし、校舎の老朽化とせまい校庭になやみつづけ改善対策をねりました。昭和四十二年七月に、御宿家政高校全面移転整備期成会(会長岩井町長)が発足し新校舎建築に一步前進しました。

そして同年十二月、妙昌寺はじめ、地主十四名の方々の協力をえて、校地として四万七千六百六平方メートル(一万四千二百五十三坪)の買収をおえました。しかしこの場所は現在山林となっているため、切りくずして整地しなければなりません。ぼう大な工事量なので、これを自衛隊に委託、待望の整地作業が始まりました。久保、鹿ノ輪の山頂(標高五十七メートル)に自衛隊のドーザーのエンジンがうなった。こんどの工事は、第一期工事として標高三十五

保険料50円引き上げ 国民年金

国民年金の保険料は、昭和四十四年の一月分から三十五歳未満の人は二百五十円、三十五歳以上の人は三百円になります。この引き上げは、前から決められていたものです。と申しますのは、昭和四十一年の法律の改正で年金額が二倍半に引き上げられました。たとえ、老齢年金では、二十五年間保険料を納めた場合、年二万四千円から六万円に、障害年金は年二万四千円から六万円(重度の障害の場合は一万二千元を加算)に、

母子年金および準母子年金は年一万九千二百円から五万五千二百円(二人目の子どもから一人四千八百円を加算)に遺児年金は年一万二千元から三万円にそれぞれ引き上げられました。

このような年金額の引き上げにともない保険料の方も引き上げになることがきまっていたのです。しかし、年金額が二倍半に引き上げられたといっても保険料をいっきよに大幅に引き上げをすることは、被保険者の皆さま方に大き

メートルの高さまで切り崩し(この土量約十五万立方メートル)約一万六千五百二十平方メートル、(約五千坪)の校地を造成する計画です。

工事に要する費用は、土地買収費二千三百万円、土地造成費、土留擁壁工事、通学路造成工事(約三百メートル)など、四千七百万円、合計約七千万円が見込まれています。

昭和四十六年度に鉄筋コンクリート四階建ての近代的な校舎が建設される予定です。

な負担がかかりすぎるということで、昭和四十二年の一月と昭和四十四年の一月の二回にわけて引き上げる方法がとられたわけです。

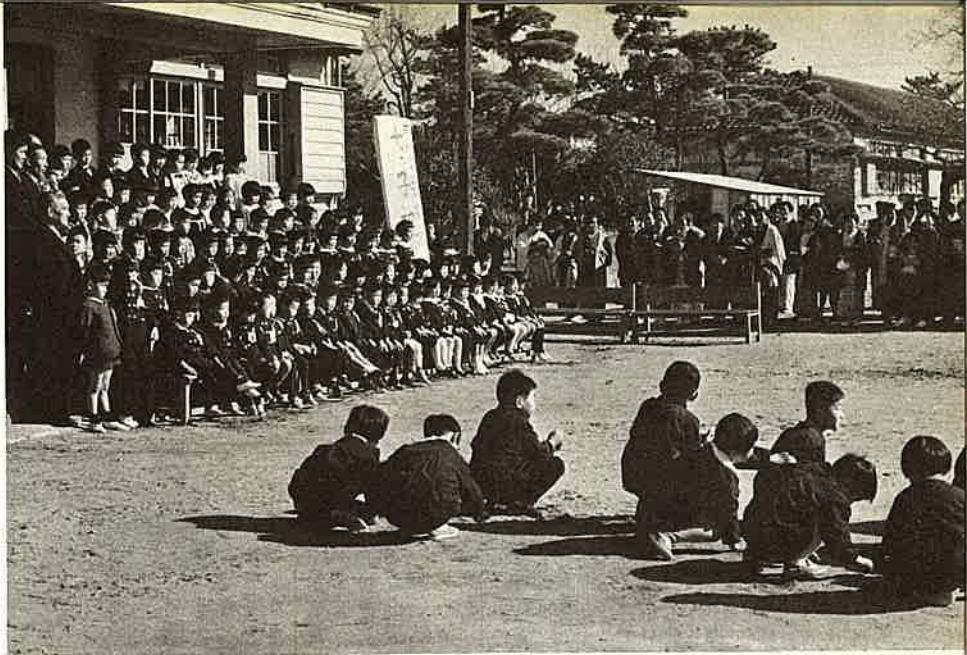
ですから、昭和四十四年の一月からは、いままでの保険料に五十円ずつプラスされ、三十五歳未満の人は二百五十円、三十五歳以上の人は三百円の保険料を納めていただくことになりました。

ところで、この引き上げられた保険料を納めることができないうな事情があるときは、保険料を免除する仕組みもありますから役場住民課で手続きなどについて相談してください。

七つ子を祝う

合同の七つ子祝いが、12月15日御宿小学校で行なわれました。

ことしの七つ子は総勢182人。おほかさんたちに見守られながら記念写真をパチリ。



御宿小にジャングルジム

御宿小学校々庭に、銀色のジャングルジムやすべり台ができました。

これは、大場善蔵氏（五倫校同窓会々長）、中島茂氏（東京五倫会々長）、岩瀬君太郎氏（御宿小学校児童愛護会々長）らが、発起人代表となり、同校出身の方たちから募金をいただき、完成したものです。

次代をなう立派な児童を育てるためには、恵まれた施設と環境が大切です。幸い、本町には、県下に誇ることできる校舎が完成しましたが、運動具などの面が校舎にくらべ劣っていました。

発起人代表の方々は、均衡のとれた教育の場に近づけようと、大変な努力をされ、昭和四十二年十月に「教育施設基金」の募集を企画し、その年の暮れに目標額に達しましたので、ジャングルジムの建設と視聴覚教具として欠くことのできない、テレビ受信装置の整備を行ない、このほど完成したものです。

学校ではこの募金に協力してくれた方たちの尊い気持ちに感謝するとともに、この施設を有効に活用して、視聴覚教育の充実と、児童の体力づくりを進めたいと思っています。

なおこの施設費の総額は約八十七万円です。

川や海にゴミを捨てないで！

白い砂浜は観光おんじゆくの宝ですが近ごろ、ゴミのためよこれ



カメラ列車で
「撮影会」

十一月二十三日、国鉄のカメラ列車で、大勢のカメラマンが御宿を訪れ、初冬の海辺で海女をモデルに撮影を楽しみました。

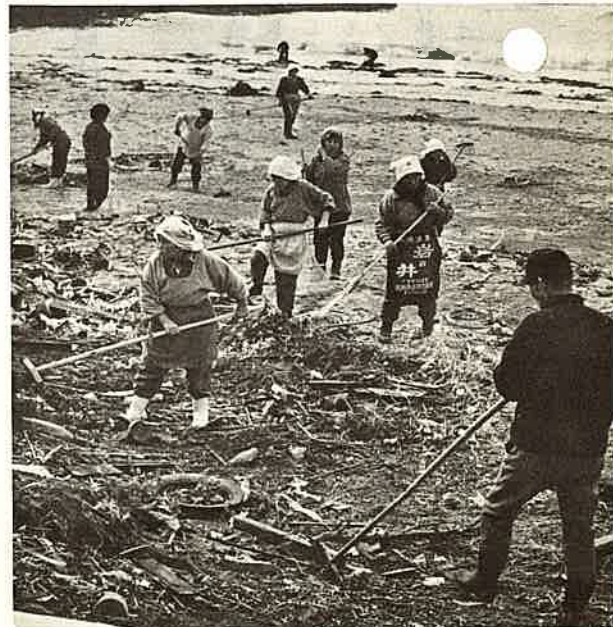


が目立っています。

このため、観光関係者の方々の協力を得て数回そうじしましたが、二日もすると、すぐまたなくなってしまう。海岸はもちろん、川にゴミを捨てますと水で流されて、砂浜をよごすことになり、川や海にゴミをすてないようお願いいたします。

あぶない!

車はいつバックするかもわかりません。運転手が気づかなかつたら大変です。こんな遊び方はぜったいにしないようにしましょう。



広報モニターと

町長のリレー対談

熊井忠雄（50歳・岩和田）

岩井町長

要望は年次計画で処理を

熊井 町政懇談会も終わったようですが、各地区の様子はどうでしたか。

岩井 懇談会を終わって意見を



対談中の岩井町長(左)と熊井さん

しぼってみますと、道路に関することが一番多く、次で教育、衛生、農業振興それに観光の順でいろいろと貴重な意見がありました。そこで懇談会を、意義あるようにするために、役場内部で時間をかけて意見を検討し、金のかからないものはただちに改良して行きたい。

また一番要望の多かった道路関係も年次計画をたて計画的に整備して行く考えです。また観光の施設も開発協会などをフルに生かして町の財政でできないところを補っていくということ、四十四年度あたりから具体的に始めようと思っています。

熊井 それから水の問題ですがね。夏になるとメートル水水位が下がりますよ。ちょうど三月分の水をいっぺんに使うのと同じ理屈になります。

岩井 水の問題は早くから、広域行政でやろうということ、五、六年前から進めてるんですが、な

職員を優遇し、仕事に責任を

熊井 ところで、町が行なう仕事については、議員さんの一般質問や町政懇談会でもって明らかにされるからわかるんですが、こういう忙しい時期になってくると、役場吏員の活動が注目されます。私たちが役場に行っても、職員がいない場合がよくありますが、仕事に差しつかえないようにおねが

かなかほか知らない。いま、この問題をきつかけに単独でやろうという話を進めています。そこで四十四年から本格的に調査して結論をだしたいと思います。その場合、上水道だけを対象に考えると問題があるので、農業用の水をきつかけにしてそれを町へも流すという案です。水道になんか金をかけることはない、という人もいますが、やろうと思えます。

熊井 夏になると、おそらく七割の人が水に困るんじゃないですか。一時に、爆発的に使うんですからね。

岩井 そこで町政をあづかる者として、水がたりない時点では遅い、だから先を見こしてやろうということになったわけです。

岩井 いまの行政は、現地をみて住民と接触して仕事を解決するという分量が非常に多くなっている。しかし、役場にお客さんがみえても時間を待したり、用がたりなかつたりするんじゃないかと、その体制はしいてあります。

熊井 そうしなければ、仕事が進まないと思いますね。でも、もうちょっと職員をふやしたらどうですか。

岩井 たしかに私のところじゃ一人あたりの事務量が多い。そこで、いま慎重に人員の問題を検討しているんです。

熊井 町の財源や、他町村とのつりあいがあるでしょうけど最高の仕事をしてもらうために、御宿の吏員には、最高の給料を出してやる。これだけの町でそれだけ出してるのかなあといわれるくらい出してやったらどうですか。その見返りとして特別職とか、議員の俸給を少しけずってもいいじゃないかと思えます。

岩井 そういう気持の方が町の中にいるということは、非常にありがたい。しかし、決められた給与があるので、それを上回ってやると、交付税なんかにも影響してくるし、むずかしいことです。でも町を伸ばしていくことは、職員の仕事のしつかりした心まえが前提ですから、そういう面で十分考える余地があると思います。

熊井 職員に高給を与えて、理想的な場でうんと仕事をしてもらう。

岩井 そういう事が一番いいわ

けなんです。町長の方針としてで
きないことはありませんが、財政
的に問題がある。

熊井 それから、町長さんが議
員の本来のあり方について、説明
したことがありましたが、その辺
のところをお話しいただきたい。

岩井 私がいつも話してますよ
うに、議員というのは、役場の執
行部と違うんだということです。
議員さんがよく仕事をするとか、

しないとかいいますがそれはちが
いますね。それから、一般住民が
議員さんが、ちよくちよく報酬を
あげるといことが話にですが

P・T・A活動に力を貸して

熊井 それとP・T・Aや学校
予算に対して、もう少しめんど
みてやつたらどうですかね、御宿
町は学校形態としては、立派なん
だけど内容としてまだ、そこまで
行きませんですね。

岩井 学校の経費は、私のとこ
ろはそうとう高いし、よその町よ
り充実したものをやっていると思
うんです。ただP・T・Aの運営
費は、町からださないと、会費で
まかなうということできりくりが
大変だと思います。といって父兄負

ね。しかし、住民の理解も必要で
すよ。たとえば、選挙になると、
相当の金がかかるんですよ。だか
ら住民も選挙になったら、候補者
に金をかけさせないように公明な
選挙をすれば議員だつて上げる上
げろとは思わないと思えます。要
するに住民の自覚次第だと思いま
す。

熊井 議員さん強いですからね
え。議員さんの提案じゃ、なか
かだめだといえないし——。とこ
ろで民生委員とか、農業委員など
の報酬はかなり低い。名譽的な存
在ならまだいいんですけど。

担を多くするわけにはいきません
から。しかし、今、P・T・A活
動の一番大切な時期にきてます。
熊井 青少年相談員というもの
は、P・T・A活動がしつかりし
ていけば必要ないんですよ。それ
と、今の先生は、子供に学力をつ
けるけれども、しつけを教えるこ
とができない。ですから町ぐるみ
でそういう活動をしなければいけ
ない。それには、幼児教育からし
っかりやらなければいけない。
教育問題は、三年や四年で効果

のであるものじゃないし、町長さん
の時代に効果を見ることは不可能
かもしれない。しかし、ここで手
をうってやらないと、何十年か先
の人が困る。だからP・T・Aに
対しても町から積極的に援助して
やつてもらいたい。

岩井 たしかに考える点があり
ますね。しかし、P・T・Aの会
合は集めるのじゃなくて、集まる
会にしなければいけない。

熊井 やはり、町内でグルーブ
活動をもつて、それに強い生徒を
立てる。そのほうが手つとり早い
し、そこに組織的な一つの働きか
けをする。区長とか、役員に援助
してもらって話し合うと効果的じ
やないですか。

岩井 いま、町ぐるみで話し合
いをもつて進めてますが、やはり
中央の学生運動なんかの影響もあ
ると思いますよ。

熊井 結局あれは、ほり下げて
いけば個人の家だというのが原
因らしい。本当にああいう思想が
いいてのは、二、三人らしい。
やはり、話し合いで戦うのが本当
ですね。

熊井 とこで衛生委員と住民
課との連絡がよくとれて活動して
いるけれど、土木委員の場合、課

との話し合いが全然ないようだが、
岩井 この前の懇談会でも指摘
されましたね、町は衛生関係につ
いては、非常に協力を求めて、ス
ムーズにいっているのに、土木に
ついてはさっぱりだといわれまし
た。やはり土木委員は部落の土木
行政をよくご存知なんで、委員さ
んに相談し、意見をきくという方
向にもつていきたい。

熊井 つまり横の連絡がたりな
い。たとえば、民生委員と議員の
話し合いとか。連絡を密にしないと
仕事も効率があがらない。
岩井 課長が自分の所管の各委
員会制度をフルに活用することな
のですが、忙しいのに集まっても
らうと悪いという消極的な考え方
が多い。これからは、細かい行政
という面であらうていくべきでし
うね。

熊井 それですよ。だから議員
さんの報酬をけずって、区の事
務補助費を少し上げてもらいた
い。

海岸の美は川の整備で

熊井 それとね、川の事なんで
すが、どうも昔から、川にゴミを
すてれば、流れるという観念があ
る。だから今でも川に平気でゴミ
を捨てている。捨てられたゴミは
海に流れて行き海岸をよごすこと
になる。この間も観光の関係者が
何回も清掃して、今きれいになっ
ていますが、皆さんで川をきれいに
にし、活用することを考えないと
いけませんね。

岩井 川下からだんだんに護岸
を作り、貯水池にしたいと思つて
いるんですよ。
熊井 現在では、貯水池として
全々使えないですね。
岩井 その他に広報活動だが、
相当活発になつてるので町民が非
常に広報紙を読んでもらえる。役場
と住民とのパイプは充分つながつ
ていると思う。たゞ、日本人は、
話すことより書くことになると非
常に消極的になる。こういうこと
を書いちゃ困るといって抹消する
ことはないし、どんどん利用して
いたいただきたい。

海越えてふれ合う心と心

ハワイの瀬川さんを招いて 昔の労苦に感謝しよう

同町岩和田出身の
瀬川さん



人生のドラマを見るよう

ハワイに住むことし八十二歳の日本人が、日本の春を待っている。その人は、戦後の荒れ果てた時期、故郷である、岩和田や御宿の小中学校に砂糖やエンピツを送りつづけた、瀬川伝治郎さん

です。飢えにおびえ、いこいをなぐした戦後の子どもたちにとって白くかがやく砂糖とピカピカ光るきれいなエンピツがどんなにうれしかったことか。繁栄の世を迎えたそのときのよろこびを思い出した当時の先生や生徒たちは、ともかく、ひとことお礼をいって昔の労

苦にむくいたいと立ち上りました。人の好意というものは、苦しいときには感じやすいが、時と共に忘れ去られ、とくにいまのような繁栄の時代にはともすればないがしろにされやすい。それだけに「あのときはありがとう」という短かいことばの陰

に、演じようとして演ずることのできない、心の暖まるすばらしい人生のドラマが秘められているといえましょう。

二年間送りつづける

瀬川さんは本町岩和田入宿の生れで、いまホノルル郊外の小高い

丘の中腹に、奥さんの多計さん、(七八)こどもたちと暮らしています。

瀬川さんがハワイに渡ったのは明治三十九年五月、十八歳のときでした。ホノルルに着くとすぐ、砂糖キビの畑で働きましたが、移民募集のときに示された労働条件とまるつきり違った低賃金に泣かされました。また排日運動にまきこまれ、白人につばをはきかけられ、くやしきあまり死のうとしたこともありました。

瀬川さんは日米開戦の半年ほど前に、一度日本に帰ってきたことがあります。このとき、瀬川さんは長いあいだの日支事変のために日本が最底の生活をしているのを知りました。

そして敗戦。「同胞はなにを食べて生きているだろうか。苦しきはきつとひどいに違う」と考えると、瀬川さんはいたたまれないあせりを感じました。

瀬川さんが故郷の小中学校、近くの病院、親類、友人宅に手当たりしだいに荷物を送りだしたのは二十一年ごろからでした。

瀬川さんは仕事から帰ると、毎晩十一時ごろまで荷造りに精だし昭和二十三年ふまでほとんど毎日

荷物を送りつづけてきました。死ぬ思いでためた金は砂糖代、エンピツ代、包装費、運賃で少しずつなくなっていきました。

しかし、瀬川さんからえがおが消えたことはありませんでした。「スラスラと書きよいエンピツ、ニコニコ喜ぶ児童のえがお、カメラにでも収めたい情景でございました」という先生たちの礼状に、同封されたこどもたちの作文を読み、図画を見ると瀬川さんは、また荷造りをはじめたのでした。そのころ六十歳の瀬川さんの指は、荷造りひもで傷だらけになってしまいました。

お礼をしよう、と立ち上る

このころ瀬川さんに宛てて送った、先生や生徒たちの礼状の一部がふとしたことから、当時岩和田中学校の校長をしていた、滝口松藏先生に届けられました。このことはすぐ当時の先生であった、岩淵正道さん、江沢一雄さん、吉田俊郎さん、宇田川悦子さん、生徒であった、小川儀一さん、大野芳正さん、鶴岡文子さん、小高光子さん、君塚秀夫さんたちに伝えられました。

サツマイモや、ヒエのはいつた



椎木吉弘君



宇田川雅彦君

歳末助け合いに暖かい寄付

「瀬川さんの心にむくいるものはやはり心以外のなものでもない。

瀬川先生の家が集まった昔の師弟たちはすぐ意見がまとまり、なんとかして瀬川さんを日本に呼んでお礼をしようということになりいまこの人たちを中心にして、瀬川さんと呼ぶ飛行機代が集められています。

真黒なごはんばかり食べていた戦後の生活の中で、突然手にした白い砂糖をなめたあときの感激をみんな、はつきりおぼえていました。

金を出して買った豪華な記念品ではない。直接、顔を見たらうえていう「あのときはありがと」のひとことではないでしょうか。瀬川さんに感謝する会の発起人となった滝口先生はこう強調しています。

瀬川さんは故郷の人たちの招待に胸ふくらます思いでこの正月を迎え、暖かくなったら日本に帰ることを楽しみにしているということです。(このことは一月一日付サンケイ新聞II写真IIで報道されました)

はおこづかいをため、千円を、御宿町婦人会は敬老会費用一部二百八十円を、町の評価委員式田雄吾君塚嘉兵衛、藤江新一、内山保、江沢富士松の各氏は五千円をそれぞれ助け合い運動のために寄付されました。

▽黒田石綿工業株式会社従業員の方々が厚生省から委嘱されまして、

▽新町老人クラブでは役員齊藤源司、松本とみ、木村まさ、米本との、鈴木よしさんたち五人が十二月九日大多喜町の養老院を慰問し全員にあめ玉や古着を、また当町からの入所者四名にクラブより三百円づつと、齊藤源司さんがたび二足づつを贈りました。

▽理容組合では数年前より町内のめぐまれない家庭に半額奉仕をして感謝されています。

歳末助け合い運動に、暖かいご協力をありがとうございました。

民生委員と母子福祉推進員が決定

民生児童委員を十一月三十日、鶴岡長、米本良之助、井上さく、の方々が退任され、十二月一日よ

り、関トシ(須賀)、片岡きよ(浜)、井上さち(高山田)、小池健(久保)、田辺喜惣治、為田えい(新

区	出生児	性別	保護者
須賀	入江重紀子	女	進
"	佐藤敏雄	男	八十八
"	山口淑子	女	末夫
浜	桜井照己	女	誠
久保	松本信治	男	孝英
岩和田	太田一浩	男	久一
上布施	吉田玲子	女	清
"	佐藤義治	男	好信
実谷	君塚弘美	女	靖直
"	吉野栄一	男	輝男
須賀	滝口菜穂子	女	清次郎
十二月	男1	女4	計5

区	十一月	男3	女3	計6
死亡者	死亡者	年令	死亡日	
須賀	神定ぶん	89	10月31日	
新町	榎本とり	83	11月28日	
岩和田	丸山直吉	81	10月30日	
"	鶴岡政治	65	11月20日	
実谷	君塚りき	60	11月4日	
"	君塚正義	28	11月22日	
十二月	男4	女1	計5	
浜	大谷清八	66	12月20日	
久保	白鳥五郎吉	73	12月23日	
岩和田	酒井イチ	83	12月9日	
"	出木李小	65	12月25日	
七本	吉田信止	73	12月22日	



おめでた

おくやみ

町)、瓜本禎蔵(六軒町)、玉田初子、大野政吉(岩和田)、高橋丑蔵(上布施)、氏原弘道(実谷)の方々が厚生省から委嘱されまして、

され、十二月一日付けで県より関トシ、片岡きよ、井上さち、為田えい、玉田初子、高橋たけの方々が新しく母子福祉推進員に委嘱されました。

母子福祉推進員は、援助指導を必要とする母子家庭の発見に努め相談、指導、調査をし、関係機関に協力を求め、母子家庭の向上に努力されています。



歩道橋を渡ろう

二日午後一時より須賀区民館で開催されました。

これは日頃納税組合の代表者としていろいろ苦労されている組合長さんたちの慰労と優良納税組合の表彰、また納税の現状を話しあうために町が主催で毎年開かれているものです。

今年度の優良納税組合として須賀第八納税組合（伊藤博人）、浜東北町納税組合（津守新次郎）、久保六番組納税組合（鶴岡鶴治）新町第六班納税組合渡辺隆治）六軒町四番下組納税組合（松井ふみ）、扇町第四組納税組合（葉田良一）、実谷上共進納税組合（君塚新治）、小幡谷村納税組合（吉野松夫）が表彰されました。

表彰

十一月二十七日夷隅郡統計研究会長による統計功労者の表彰式があり、当町の石井進（久保）、花崎実（六軒町）、吉野康哉（実谷）の三氏が優良統計調査員として表彰されました。

十一月二十八日千葉県国民健康保険団体連合会より国保事務が優秀である高橋金夫さん（役場吏員）が表彰されました。

納税組合の表彰式が十一月二十

優良納税 組合を表彰

詩

助け合い

三年B組 岩上三枝

さあ、みんなで手をつなごう。
この手からかよいあう暖かい心。
この手から始まる小さな助け合い。
そして
この手から生まれる平和な町、国。

目を見開いて回りを見わたせ。
いつたい、
その見開いた目には何が映ったの
だろうか？
足の不自由な少年の松葉づえか。
目の見えない少女の後姿か。

みよりのない小さな子どもの涙か。
親類、子どもに捨てられた老人の

（会長大地直枝）は社会保険庁長
官より国民年金民間協力団体として
表彰されました。

昭和四十三年度千葉県勤労者美術展写真の部で、滝口栄蔵さん（役場観光課）の作品、「汽車ごっこ」が推薦に入賞し、千葉県知事より表彰されました。

白髪か。

家のない親子のさまよいか。
それとも

水害におそわれ、一瞬の間に田畑を、うばわれてしまった農民のなげきの顔か。

おそろくその見開いた目には、
様々な不幸が映っているに、ちがいない。

今の、私たちは眼前にあるこの不幸を、黙ってものがしてしまつてよいのだろうか。

いやいや少なくとも、
元気に強勉し運動のできる私たちには、眼前に広がっているこの不幸を、黙ってものがしてしまうことは、許されぬのだ。

それならいつたいどうすればいい
のか？
今の私たちには、ばく大なお金を
出して、大きな施設をたててやる

ことも、

その不自由な足をなおしてやることもできない。
しかし、
たった一つ今の私たちにできること、

それは、
その不自由な少年や少女の気持ちの百分の一、千分の一でも理解してあげることだ。

そして、
その理解ある思いやりの気持から
愛の助け合いが始まり、
人々の手は暖かく結び合う。

この手から暖かい愛がかよひ。
この手から生まれる平和な町、国。
そして、
この手から大きな愛の助け合いが始まる。

何物にもかえがたい、愛の助け合いが、
るのは人間の心理ですが、車や人で消防車が現場近くにいけない限り消火のさまたげになります。
とくに車は道幅を狭くするばかりでなくあとからいった消防車が現場にはいれなくなってしまうので、車で火事現場にいかないようご協力をおねがいします。

町	人口
宿	3,943人
の	4,613人
人	8,556人
(12月末現在)	
男女計	2,101
世帯数	

消防車に 道をゆずろう

火事がおきると見にいきたくな

発行所 千葉県御宿町役場 発行責任者 岩 夫 敏 夫 編集者 加 藤 長